

令和8年第4回小坂町議会（定例会）議事日程 第2号

令和8年9月10日（木） 午前10時開議

◎ 一 般 質 問

(1) 2番 工 藤 文 明 君

(2) 4番 鹿 兒 島 巖 君

(3) 7番 木 村 則 彦 君

(4) 6番 本 田 佳 子 君

(5) 8番 秋 元 英 俊 君

令和 8 年 9 月 9 日 招 集

第 4 回小坂町議会（定例会）

発 言 通 告 書

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
1	2	工 藤 文 明	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨) 1. 自主防災組織の結成 と充実に向けて		(発言の内容) 町では、大規模な災害発生に備え、「自分たちのまちは自分たちで守る」という共助の考え方にに基づき、災害による被害を予防し軽減することを目的として自主防災組織の結成を推進しています。 しかしながら、町の自主防災組織は、令和8年6月現在、18自治会で結成され全世帯に占める組織率は約44パーセントであり、秋田県の組織率の約73パーセントに比べ大きく下回っている状況にあります。 自主防災組織を増やしていくために、未結成の自治会などへ今後どのような働きかけをおこなっていくのかを伺います。 また、すでにある自主防災組織にあっては、有事に備えた装備や訓練の積み重ねといった組織の中身を充実させていくことが大切となります。現状の備蓄品や訓練などによって対応が十分にできているのかを伺います。 十和田湖の消防救急体制につきましては、令和6年11月に十和田地域広域事務組合と鹿角広域行政組合が新たな消防相互応援協定を締結し、小坂町を含む十和田湖畔のすべてにおいて、迅速な緊急時の出動態勢がとられています。 その一方で、大川岱地区においては、すでに消防団が解散し消防団員が不在となっています。休平地区においては、有事の際に出動できる消防団員が不足しているという実情があります。 大川岱と休平には、それぞれ防災拠点施設とも言うべき消防団器具置場が配置されており、小型動力ポンプを積載した車両が配備されておりますが、これらを維持し		
2. 十和田湖の防災拠点 施設の運用				

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
1	2	工 藤 文 明	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨)		(発言の内容)		
3. 部活動地域展開の状況		有効に活用していくことが地域を守っていくための課題となります。		
		十和田湖の防災対策として、十和田湖畔で暮らし十和田湖を訪れる方々のために、大川岱と休平の防災拠点施設を今後どのように運用していく予定であるのかを伺います。		
		中学校の部活動地域移行については、令和7年第2回定例会において、その進捗状況についての回答がありました。 その後、地域移行は地域展開へと名称を改め、令和8年度は改革実行期（前期）に入っているわけですが、タイムスケジュールの最終となる令和13年度までに、部活動の地域展開が完全に見込める状況にあるのかを伺います。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
2	4	鹿兒島 巖	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨)		(発言の内容)		
1. 町の医療・福祉の現状と今後の課題について、住み続けられる町づくりへの提言		町民の医療・福祉、健康と暮らしを守ることは、町政の根幹の一つと考える。 そこで、これらの現状と今後の課題について質問と提案を行いたい。 1. 町民にとって身近で、無くてはならない医療施設としては町立の小坂歯科診療所があるが、診療所の経営状況と現状での課題、そして今後の展望などについてどう考えているか。 (1) 人口減少と相まって、近年受診者の減少が進んでいる状況が続く中で、一般会計からの繰入金も徐々に増えており、今後もこの傾向はつづくと思われている。 この認識はどうか。対応策は検討されているか。 (2) 長年にわたり、治療を担い、町民からも信頼されている所長ではあるが、公務員であることから定年という問題がある。 その後の処遇や医師確保などどう考えているか。 2. 町立ではないが、これまでの経過から、町民に親しまれ、頼りにされてきた医療法人小坂町診療所について、所長の高齢化を心配する声が聴かれる。 小坂町診療所は町の医療・福祉施策に係わる重要な施設であると認識しているが、今後について町としてどう考えているか。 3. 同じく命と暮らしを支える福祉関連について、町は現在、小坂ふくし会の施設充実に向けた取り組みに積極的に係わり、町としても高齢者住宅の建設計画を進めている。これら町の福祉施策と関連して、「ほっとりあ」には七滝公民館に併設して、七滝保育所と社会福祉協議会		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
2	4	鹿兒島 巖	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨)		(発言の内容) のデイサービスセンターほっとりあがあった。 しかし、それぞれに人口減少などに伴う施設利用者の減少などによりデイサービスセンターほっとりあは廃止され、施設の一部は一時、地域住民の入浴施設として利用されたが、まもなく閉鎖され、実態としてはほとんど活用されていない状況。 また、保育所も廃止となり、現在は乳幼児と保護者などの「わくわく開放事業」の場としてわずかに利用されているものの、有効利用とは言えない現状と受け止めている。これら施設の有効活用を検討すべきと考えるがどうか。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
3	7	木 村 則 彦	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨) 1. 学校体育館への大型 冷風機の設置 2. 農業支援		(発言の内容) 以前、冷房設備の導入についての同僚議員の一般質問への答弁では、エアコン設置費用のほか断熱性確保工事が必要となることから、全体で数千万の費用が必要となるということや、7・8月は町民プールを利用した水泳授業を行うことから体育館を使用することは少なくなってきたので、現段階では体育館に空調設備を設置する考えはないとのことでした。 近年では、長期間猛暑が続くことや、短期間でも体育館を利用しての学校活動が行われることから、施設の改修を伴う冷房設備設置よりも、大型冷風機を設置する学校が増えています。 今後も、熱中症に備えた安心安全な学校活動を支えるためにも、体育館への大型冷風機設置について検討する考えはないか伺います。 コメ農家に支払う概算金が昨年から比べて大幅にダウンすると共に、資材費の高騰や食料品消費税1%などにより、小規模農家を中心に営農が難しくなることが懸念されています。 政府も食料品の消費税減税で減収が生じ、経営に悪影響が出る小規模農家に対して、一定程度の給付を検討しているようです。 小規模農業者の離農は農村部からの人口流出に繋がっており、農村社会の衰退を招く一つの要因でもあることから、次の項目について伺います。 (1) 現在、コメ農家で10haまでの農地を営営している小規模農業者は何件ほどか。 (2) 農村社会がもたらす多面的機能や、多様な文化、		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
3	7	木 村 則 彦	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨)		(発言の内容)		
3. 町有地を活用した定住促進		コミュニティを維持していくために、小規模農業者への支援を町としてどのように考えているか。 (3) 食料品の消費税減税による小規模農業者への国の給付金とは別に、中山間地でも営農できる持続可能な支援を検討できないものか。 平成30年に制定された、町で賃貸住宅を経営しようとする者に町有地を無償で貸し付け、又は売却することで賃貸住宅の建築を促進し、定住環境の整備を図ることを目的とした、小坂町民間活力を利用した賃貸住宅建設促進条例について、今まで適用となった賃貸住宅が建設されていないのが実情です。 町有地を活用しての定住促進を図るうえで、次の項目について伺います。 (1) 現状で、定住を促進するための賃貸住宅に不足があるという考えなのか。 (2) ある程度の規模の賃貸住宅を建設するための町有地は、現状では何か所があるか。 (3) 画期的な条例かと思うが、制度が利用されない理由をどのように考えるか。 (4) 町有地を活用して定住促進を図るうえでも、条例の内容を見直したり、他の活用方法を検討する考えはないか。		
4. 地球温暖化対策における事業者との連携及び支援		町長は選挙時の公約で、脱炭素社会の取り組みをする上では自治体と町内企業の連携が大切であると述べています。 昨年度に策定した地球温暖化対策実行計画でも、基幹		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
3	7	木 村 則 彦	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨)		(発言の内容) 産業である製造業が活発であるため、人口減少と比較して産業部門の総排出量の減少速度は速くないと想定されることから、積極的に温室効果ガスの排出量を減らす取り組みが必要であるとなっています。 2050年のゼロカーボンを達成するために、事業者との連携・協動を進めていくための施策について、次の項目について伺います。 (1) 今後事業者が、積極的に温室効果ガスの排出量を減らす取り組みをするうえで、町としてどのようにして事業者と連携・協動を進めていくのか。 (2) より積極的に、省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの導入を促進するために、町独自の補助制度を検討する考えはないか。 (3) ゼロカーボン達成のためには、排出量の削減だけでなく、積極的な森林保全・整備による二酸化炭素吸収量の維持が重要であることから、森林整備面積の評価指標が年50haとなっていますが、指標を達成するための、事業者との連携・協動をどのように考えているのか。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
4	6	本 田 佳 子	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨)		(発言の内容)		
1. 高齢者、低所得者向け住宅の今後の構想		1. あけぼの、つつじ平の公営住宅は老朽化が進んでいるため、町として今後、同じ場所に建て直さないとしていることを、住民にどのように伝えているか。 2. 今後、新しく低所得者や高齢者向けの住宅を建設する予定があるのか。		
2. 身寄りのない高齢者に対する町の対応		1. 小坂町では身寄りのない高齢者が、どの程度いるのか。 2. 病院、施設等に入らなければならないとき、どのように対応しているのか。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
5	8	秋 元 英 俊	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨) 1. ツキノワグマ及びイノシシ対策		(発言の内容) 6月議会に引き続き、ツキノワグマ対策に対する質問と加えてイノシシ対策に関して質問します。今年度上半期を迎えますが、クマの出没が町のメールや報道で見受けられ、またイノシシの出没も多く聞こえています。行政でも十分把握している状況にあると思いますが、クマによる人身事故を未然に防ぐと共に、イノシシによる農作物被害に関する対策を、実際どのように進め、対処しているのかを伺います。 1. 現在、小坂町ではクマ及びイノシシの出没目撃情報を把握していると思いますが、現在の出没状況をどのように分析し、今後の被害拡大について、どのような危機認識を持っているのか当局の考えを伺います。 2. 幸い人身事故は発生していませんが、出没後の予防対策が必要になると思います。人身事故防止対策を強化する必要があると考えますが、当局の考えを伺います。 3. イノシシについて、一度定着すると個体数が増加するとされていますが、被害が大きくなってからではなく、定着する前から積極的な対策が必要となると考えますが、当局の考えを伺います。 2. 小坂町におけるICT教育の現状		
		国が進めるGIGAスクール構想は、児童生徒一人一台の端末と高速大容量のネットワークを整備し、ICTを活用した教育が進めることを目的としています。 小坂町においても、令和2年度から端末が整備され、ICT支援員の配置や通信環境に取り組んでいるものと認識しています。一方で、端末の更新費用、維持管理費、教職員への教育、児童生徒の健康への影響、家庭環境の格差など、多様な課題もあると考えます。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
5	8	秋 元 英 俊	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨)		(発言の内容)		
3. 生活道路道路交通法 改正		そこで、小坂町におけるICT教育の現状についての問題点などを教育委員会に質問します。 1. GIGAスクール構想を進めてきた状況で、小坂町の児童生徒の学力が向上しているなどの効果が確認されているのかを伺います。（端末を使うことで漢字など筆記における学習の低下が怪訝されるのではないか。） 2. 授業での利用状況や教科ごとの活用また家庭への持ち帰りなど教育委員会ではどの程度把握しているかを伺います。 3. 児童生徒の端末の仕様による、視力への影響など健康への影響について、子供たちの健康を守る視点から教育委員会ではどのような指導をおこなっているかを伺います。		
		住宅街など道路の狭い「生活道路」の法定速度を60キロから30キロに引き下げる改正道路交通法施行が9月1日から施行されています。 歩行者や自転車が巻き込まれる重大事故を防ぐことが目的で、警察は広報啓発に努めるとともに悪質な違反者への取り締まりを強化するとしています。啓発などは本来警察の業務ではありますが、小坂町での交通安全対策としての考えを伺います。 1. この「生活道路」、まだまだ住民が把握しているとは思えないことから、小坂町での啓発運動をどのように考えているかを伺います。 2. この「生活道路」の小坂町30キロ制限道路マップを作成できないか。		